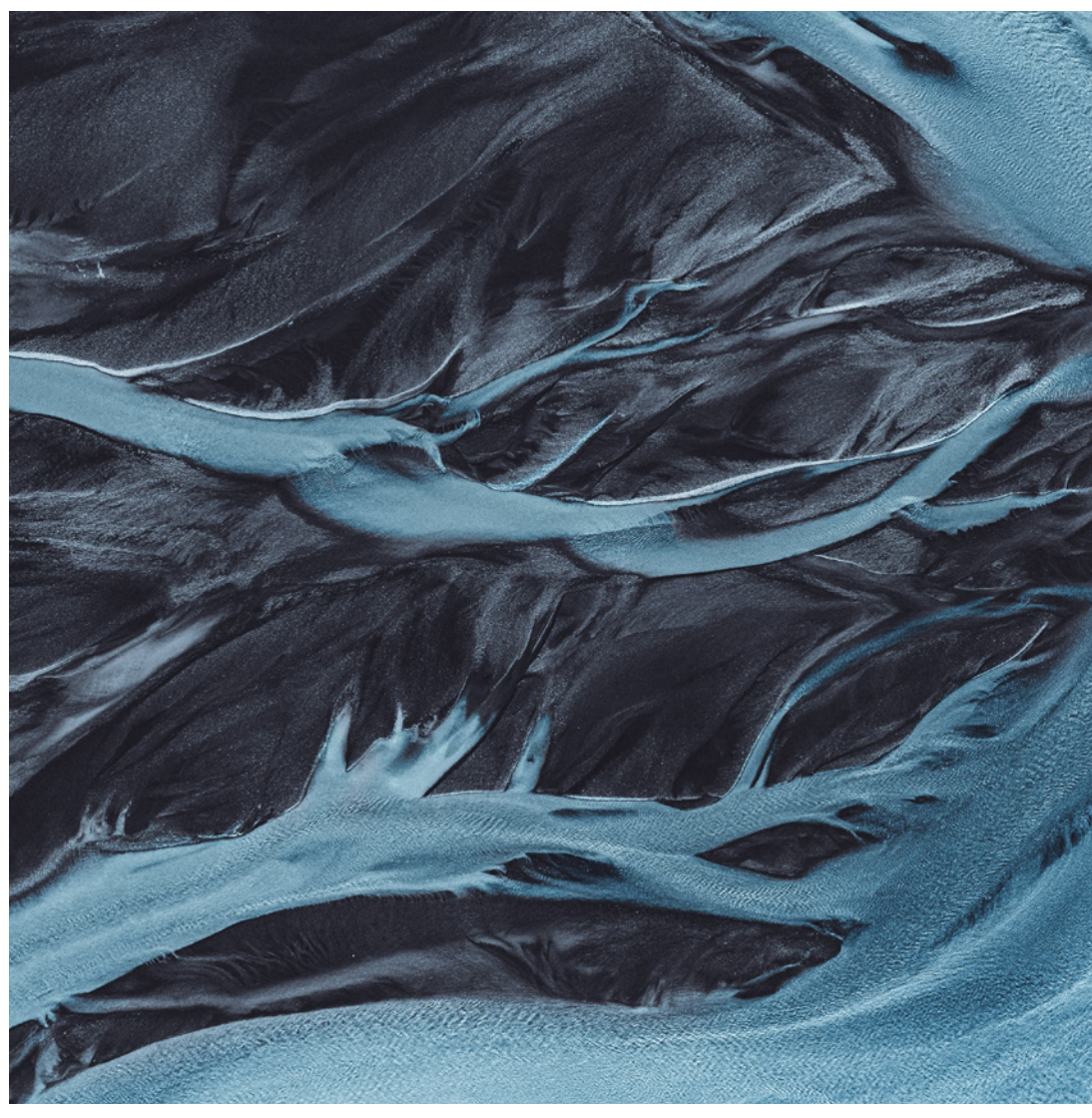
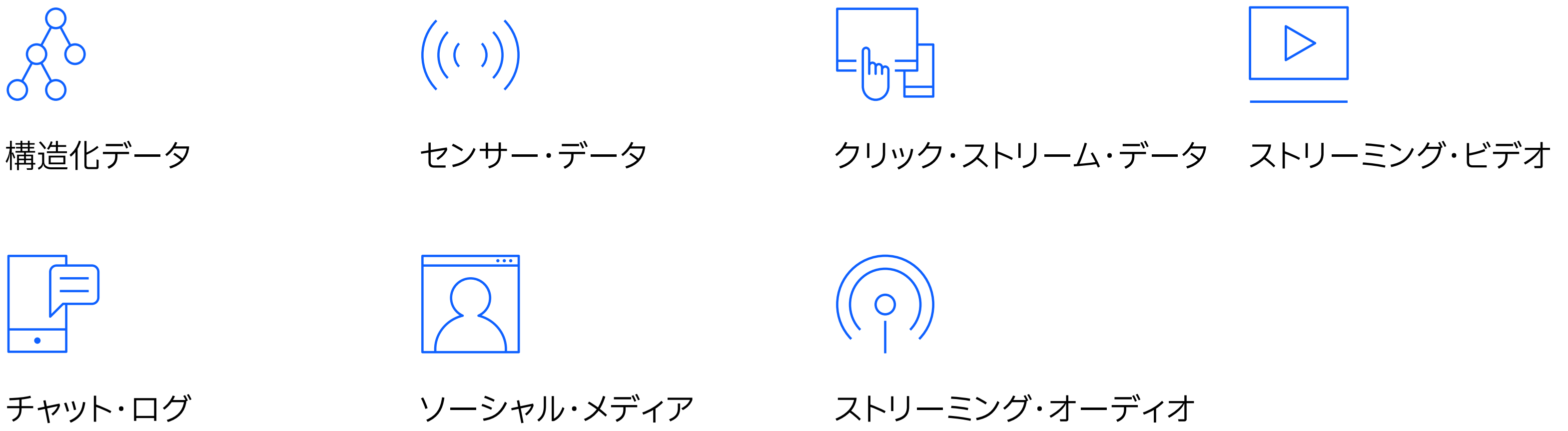


# セルフ・サービス型でクラウド上のあらゆるデータを活用するクラウド・データレイク



## 新しいパターンを発見するための最新データ管理

新しい情報源からの新たなタイプのデータを活用し、イノベーションを推進するための洞察を導きだします。

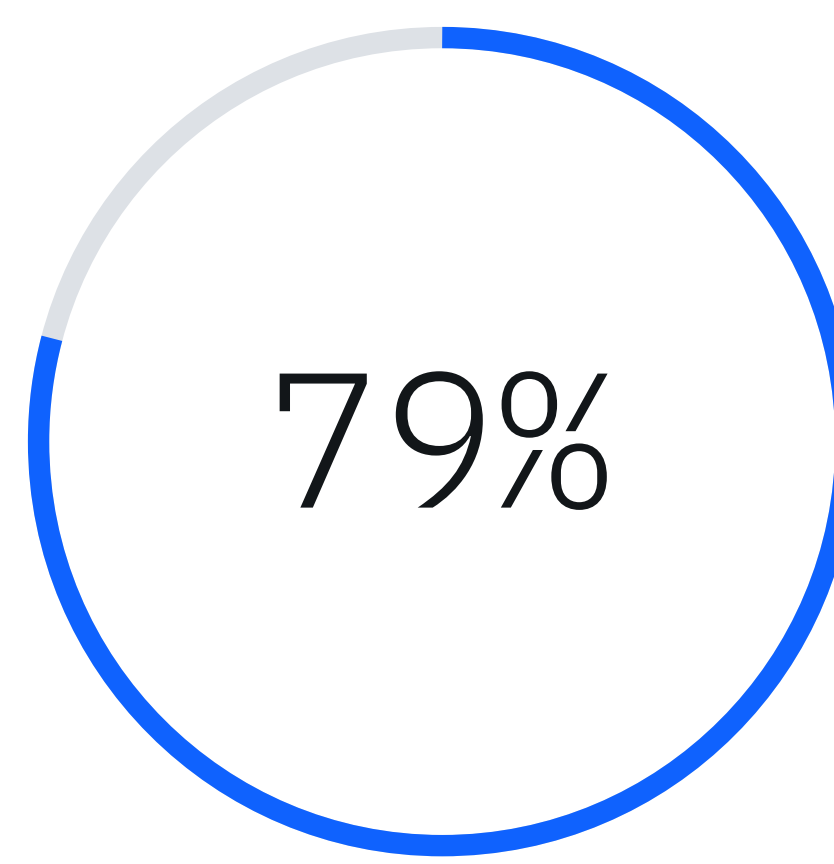


## マルチクラウド・データ・レイクによるエンド・ツー・エンドのデータ管理の自動化

- ↳ プロセスや運用をリアルタイムで改善し、モノのインターネット (IoT) デバイスをサポートします。
- ↳ お客様の360度ビューを提供することで、行動予測をよりの確にし、顧客ロイヤルティと顧客保持を強化します。
- ↳ データの取り込みとデータ保持の合理化により、コストを削減します。

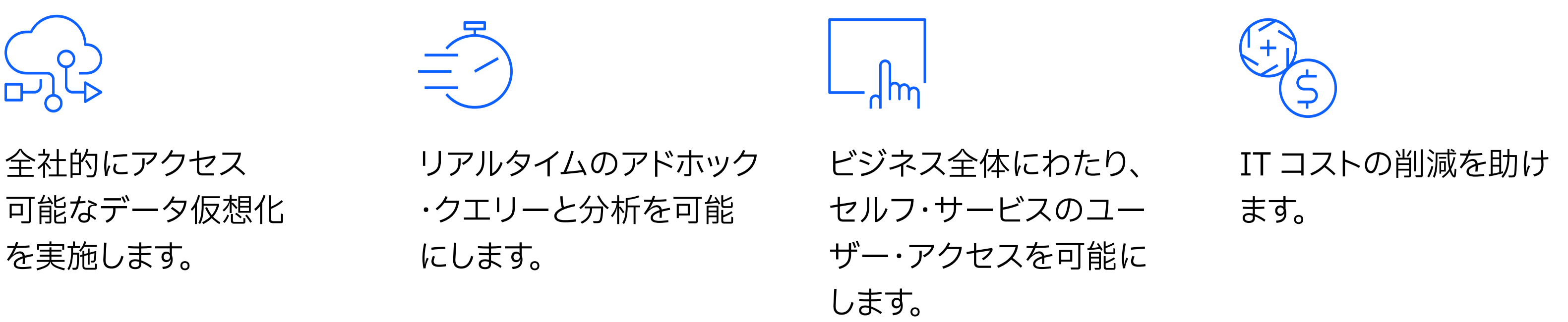


IDCによると、世界の非構造化データは今後4年間、20%程度の割合で成長し、2025年には144 ZBに達すると見込まれています<sup>1</sup>。



79%のCEOが、業績達成に寄与するトップ・テクノロジーはIoTであり、それに続いて、クラウド (74%)、AI (52%) であると回答しています<sup>2</sup>。

## 全社の利益を見る



データレイクを既存のデータ管理インフラストラクチャーに統合する最適な方法を学び、データ型のより良い意思決定のために活用するデータの種類を拡張します。

[詳細を見る](#) →

© Copyright IBM Corporation 2022. IBMおよびIBMロゴは、世界の多くの国で登録されているIBM Corpの商標です。  
1. IDC, "Worldwide Global DataSphere and Global StorageSphere Structured and Unstructured Data Forecast", 2021–2025, Doc # US47998321, July 2021.  
2. IBM Institute of Business Value, "5 trends for 2022 and beyond", December 2021. <https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/report/business-technology-trends-2022>

